

飯舘村民生児童委員協議会

(平成 25 年 11 月 12 日掲載記事)

(1) 美しい村飯舘

飯舘村は、東経 140 度 44 分 18 秒、北緯 37 度 40 分 33 秒に位置する阿武隈山系北部の高原に開けた豊かな自然に恵まれた村です。総面積 230.13 km²の約 75%を山林が占めた地形は比較的なだらかで、北に真野川、中央に新田川と飯樋川、南部に比曽川が流れ、その流域に耕地が開かれ集落を形成しています。

年平均気温は約 10 度、年間降水量 1,300 ミリ前後で高原地帯独特の冷涼な気候にあります。平成 22 年には「日本で最も美しい村」に加盟しました。

(2) 震災による原発事故の影響

2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分、マグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震が発生し、飯舘村は震度 6 弱（観測地点：伊丹沢地区）を記録しました。地震動そのものによる被害は他地域と比較すると軽微でしたが、地震とそれに伴う津波によって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所事故の影響は非常に深刻なものとなりました。

飯舘村はその全域が、放射線量が年間積算 20 ミリシーベルトに達するおそれがあるとする「計画的避難区域」に指定され、全村避難を余儀なくされました。これによって、総人口 6,152 名、世帯数 1,715 戸が村外に避難し、県北、浜通りに 9 つある仮設住宅や県内外の借上げ住宅で避難生活を続けています。

現在、飯舘村は避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域に分かれており、帰還に向けて村内の除染が進められています。一部の行政や企業も村に戻っています。1 日でも早く元の飯舘村に戻ることが強く望まれます。

(3) 震災後の民児協の活動

民生委員を含めた全村民が避難していますが、民生委員の活動は、震災以前の地域のコミュニティを維持するために、元々の担当地区内および避難先地域の住民を活動対象にしており、毎月、定例会を開き、各担当地域の状況を報告しています。

震災直後は活動が難しい状態でしたが、社協の生活支援相談員と同行し、情報を共有して避難先ごとに民生委員の区割りをして活動再開の準備を進めました。

避難が落ち着いたことから積極的に訪問をするなど、できることから徐々に活動を再開しました。

しかし、避難後も状況が変化しているため、様々な問題もあります。

- ・ 住民が各地域に避難しているため震災前と同様の活動が難しい。
- ・ 避難地域が広範囲であるため訪問が難しく、電話のみの場合もある。
- ・ 避難により世帯が分離しているため情報収集が難しい。

このような状況のなかで一歩ずつ問題を解決しながら前に進んできました。

震災から2年7か月が経過した現在は、長期化する避難生活を強いられている住民のために、仮設住宅、借上げ住宅で生活している村民の現状を把握して各機関に繋ぐ支援や、原発事故の補償金等を狙った悪質な手口による詐欺等のトラブルへの対策の学習、日常生活自立支援事業が必要な方への関係機関の紹介を行なっています。

その他、社協主催の借上げ住宅居住者対象の「お茶飲み会」に参加し、住民との交流を図り、相談業務を行なっています。

▼お茶飲み会の様子



(4) 今後の課題

避難者支援をしている民生委員・児童委員に精神的な負担がかかっています。多様な方法により民生委員・児童委員に対する心のケア、メンタルヘルスの取り組みを行なう必要があります。また、各講習会や研修に参加して、これからの避難生活における住民の要望等に応えられるように民生委員としての力量を向上させていく必要もあると考えています。